

屋久島の 魅力に迫る！ その2

屋久杉

「ユネスコ」の「世界自然遺産」に登録された「屋久島」。その島の象徴ともいえる「屋久杉」は、現地では樹齢1000年以上のものを「屋久杉」、そして、樹齢1000年以下の木を「小杉」と呼んでいる。樹齢数百年でもまだ、「若い」と子供扱いにされているほどの世界でも珍しい、長寿の木です。ちなみに、内地の杉材は300～400年で大径木・老木とされています。

大昔は信仰の対象となっていた為、伐られることのなかった「屋久杉」は、500年余り前から伐採されるようになり、江戸時代の幕末までに5～7割もの屋久杉が伐られたとされています。その後も伐採が続き、27年前より国の政策によって立木の伐採は禁止され、以来、土埋木(どまいぼく)と呼ばれる、過去に伐採して残った根株部分や、台風などで倒れた倒木のみ伐り出すことが許可されています。

しかし現在、「土埋木」も、ほとんど伐り尽くし、関係者によれば、あと3年で無くなる状況だといえます。今後、事実上、屋久杉が枯渇する前提で、今あるもの＝この貴重な資源をより有効に、捨てることなく、完全活用することが、業界の、そして当社の「使命」であると考えています。

写真は 山から伐り出した土埋木 屋久島安房港 木材置場にて



代表取締役 八田欣也



NATURE DESIGN

岡崎製材株式会社